

SPring-8 運転・利用状況

公益財団法人高輝度光科学研究センター
研究調整部

◎平成 25 年 9～11 月の運転・利用実績

SPring-8は9月24日から11月3日までセベラルバンチ運転で第5サイクルの運転を行い、11月5日から11月30日までセベラルバンチ運転で第6サイクルの運転を実施した。第5～6サイクルでは軌道変動によるアポート等による停止があったが、全体としては順調な運転であった。総放射光利用運転時間（ユーザータイム）内での故障等による停止時間（down time）は、第5サイクルは約0.3%、第6サイクルは約1.4%であった。

放射光利用実績（いずれも暫定値）については、実施された共同利用研究の実験数は、第5サイクルは合計332件、利用研究者は1,553名で、専用施設利用研究の実験数は合計213件、利用研究者は1,136名であった。第6サイクルは合計266件、利用研究者は1,185名で、専用施設利用研究の実験数は合計172件、利用研究者は855名であった。

1. 装置運転関係

(1) 運転期間

第5サイクル (9/24 (火) ～11/3 (日))

第6サイクル (11/5 (火) ～11/30 (土))

(2) 運転時間の内訳

第5サイクル

運転時間総計 約957時間

①装置の調整およびマシンスタディ等

約286時間

②放射光利用運転時間 約669時間

③故障等による down time 約2時間

総放射光利用運転時間(ユーザータイム=②+③)

に対する down time の割合 約0.3%

第6サイクル

運転時間総計 約601時間

①装置の調整およびマシンスタディ等

約97時間

②放射光利用運転時間 約496時間

③故障等による down time 約7時間

総放射光利用運転時間(ユーザータイム=②+③)

に対する down time の割合 約1.4%

(3) 運転スペック等

第5サイクル (セベラルバンチ運転)

- ・ 11 bunch train × 29
- ・ 1/14 filling + 12 bunches
- ・ 11/29 filling + 1 bunch
- ・ 203 bunches

第6サイクル (セベラルバンチ運転)

- ・ 11 bunch train × 29
- ・ 1/14 filling + 12 bunches
- ・ 203 bunches
- ・ 入射は電流値優先モード (2～3分毎 (マルチバンチ時) もしくは20～40秒毎 (セベラルバンチ時)) の Top-Up モードで実施。
- ・ 蓄積電流 8 GeV、～100 mA

(4) 主な down time の原因

- ・ 地震によるアポート
- ・ 軌道変動によるアポート

2. 利用関係

(1) 放射光利用実験期間

第5サイクル (10/3 (木) ～11/3 (日))

第6サイクル (11/6 (水) ～11/30 (土))

(2) ビームライン利用状況

稼働ビームライン

共用ビームライン	26本
専用ビームライン	19本
理研ビームライン	9本
加速器診断ビームライン	2本

第5サイクル (暫定値)

共同利用研究実験数	332件
共同利用研究者数	1,553名
専用施設利用研究実験数	213件
専用施設利用研究者数	1,136名

第6サイクル (暫定値)

共同利用研究実験数	266件
共同利用研究者数	1,185名
専用施設利用研究実験数	172件
専用施設利用研究者数	855名

◎平成25年12月の運転・利用実績

SPring-8は12月2日から12月21日までセベラルバンチ運転で第7サイクルの運転を実施している。

第7サイクルの運転・利用実績については次号にて掲載する。

◎今後の予定

SPring-8は12月22日から平成26年3月31日まで冬期点検調整期間とし、加速器やビームラインに係わる機器の改造・点検作業、電気・冷却設備等の機器の点検作業を実施する。

また、蓄積リング棟熱源機器の老朽化に伴い、電力需要の抑制や省エネルギー化を目的とし、熱源機器更新(機械・電気)設備工事を予定している。